

令和4年度 小規模多機能型居宅介護「サービ評価」総括表

法人名	社会福祉法人 京都社会事業財団	代表者	野口雅滋	法人・ 事業所の 特徴	事業所の理念【「思い」「暮らし」「絆」を職員全員が共有し実践できる体制を構築し、利用者の「思い」の実現に向けた支援を目指しています。事業所は長年、地域の人々に親しまれた集会場を改修し併設され、地域福祉の拠点となっています。地域行事等、地域の住民協働による活動に積極的に参画し、地域との繋がりを大切に事業運営をしています。
事業所名	京都厚生園松尾の家	管理者	志田彰大		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	3人	人	1人	1人	人	1人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・運営推進会議での報告内容や方法を見直し、取り組み内容が伝わりやすくなるよう工夫改善を行う。	・昨年度の教訓を活かし、運営推進会議ではできるだけ写真を取り入れ可視化をはかった。効果として一定伝わった部分もあったが、事業所内での取り組みや、職員の立ち居振る舞い、ご利用者の様子、雰囲気等、外部の方からすると見えにくい部分も多かった。	・ケアマネジャーや管理者が取り組んでいる事(地域の会議に出ていることなど)を自分がしていないから評価として「ほとんどできていない」とチェックしている項目が気になる。事業所としてやっていることができていると評価しても良い。取り組んでいる事を皆が知っている、見えている方が良い。	・次年度体制変更もあることから、サービ評価の実施に対して、事業所内で改めて学ぶ機会を持ち、実施の意味や意義について知る。考える。
B. 事業所のしつらえ・環境	・今年度実施できなかった高所清掃、エアコン清掃の実施を行う。 ・ご利用者の状態に合わせながら柔軟に受け入れ、対応ができるよう環境整備を進める。特に各居室のベッド環境を中心に整える。	・高所清掃は実現しなかったが、エアコンは前代業者委託も含め全台実施することができた。 ・ご利用者の状態に合わせてベッドや椅子、ポータブルトイレなどの配置を変更し、自宅での生活に近い環境での宿泊利用や、リスクの高いご利用者の安全を確保するための工夫改善を年間通して行うことができた。	・仕方がないのかもしれないが、井戸会議所を利用する際にトイレが使用できないとか、見学ができないということがあるので、今はやはり入りにくい。 ・入っちゃいけないと思うことがある。 ・効率化を図ることも大事であるが玄関にゴミ箱やバケツが置いてあることは気になる。玄関は事業所の顔でもあるので意識してもらいたい。 ・井戸会議所がある際には感染症対応の兼ね合いで職員が休憩室として利用している事は理解できるが、蓋のないゴミ箱にゴミが溜まっていると外部の方が使用した際にどう思うか？せめて蓋つきのゴミ箱にしてはどうか？	・新型コロナウイルス感染症5類引き下げのタイミングで外部の方の入室制限やボランティアの再開について検討を行う。 ・感染症予防対策を優先(効率化含め)した環境の見直しを図る。
C. 事業所と地域のかかわり	・ご利用者を取り巻く地域、今までの関係を意識し事業所がご利用者と地域の橋渡しができるようになる。 ・ご利用者、ご家族から今までの暮らしや繋がりを聞き、事業所としても一緒に繋がっていく。その中でご利用者を中心とした地域、事業所を含むネットワークができるよう個別事例から取り組んでいく。	・事業所と地域が積極的に繋がる取り組みはできなかったが、ご利用者の支援の中で途切れていた地域との繋がりを再構築することができた事例もあった。また利用者の個別支援として地域の和菓子屋やコンビニ、スーパーでの買い物支援を行う中で、ご利用者と地域の繋がりを意識した支援を行った。しかし取り組みは一部のご利用者に限った対応となってしまった。	・地域の繋がりにについては色々取り組んでいるのだと思うが、コロナ禍も影響し見えてこない部分が多い。見せ方の工夫を望みます。 ・開所当初期待したまで地域には根付いていないと感じている。まだまだ地域資源として知られていない状況は実際に感じる。「何をやっている所？」と聞く人もいる。もっと事業内容を周知するよう工夫改善を求めます。	・ご利用者を取り巻く地域、今までの関係を意識し事業所がご利用者と地域の橋渡しができるようになる。(継続) ・その中で事業所としてもご利用者と地域の繋がりに関わり、事業所と地域が繋がる(顔見知りの関係)ようになる。 ・事業所と地域が繋がることで松尾の家の事業内容や取り組みを知って頂く機会をもつ
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	・ご本人の生活を松尾の家で完結しない。ご本人、ご家族、関係してきた地域の方々との連携、協働を行い、担っている事、役割は残しながら支援の検討を行う。松尾の家がご本人の生活の中心にならない支援を行っていく。 ・ご本人の意思決定を大切にします。	・松尾の家がご本人の生活の中心にならないよう、今までの役割や関係を途切れさせないように支援の検討は行ってきた。そのためにご本人、ご家族のできる事、できない事を見極める事、ご本人の生活ペースを大切にしながら支援の介入に心掛けた。ご本人の意思決定についても、まずはご本人の思いを聞く事を大切に。関係機関や地域の方との連携、協働までの実践はできなかった。	・コロナ禍地域との関わりやイベント参加等、滞っている事も多いと思う。 ・個別別の地域ケア会議は開催したら良いと思う。地域からすると事業所とつながった後の情報がないと「もう見守らなくてよいのかな？」と思ってしまう。個人情報等の事もあるが、やはり連携や協働は必要だと思う。	・個別地域ケア会議の開催の実現。地域ケア会議を通して地域資源や知り、本人の暮らしを支える取り組みや協働についての検討・実践を行う。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・ご利用者とご家族の参加を促し、松尾の家での取り組みを知って頂く。 ・事業所での取り組みを知って頂けるよう運営推進会議内容の見直し、資料の改善。 ・運営推進会議開催方法の検討(オンラインの活用等)	・ご利用者の参加は実現できなかった。ご家族の参加も1名のみであり、積極的な参加促しや工夫改善には取り組めなかった。事業所での取り組みを知っていただけるよう資料の改善は行ったが見えにくい部分も多いとのご意見をいただいた。 ・今年度は毎回参集での開催をすることができ、オンラインでの開催機会はなかった。	・昨年度に比べて事業所の取組は分かりやすかったが、やはりコロナ禍で見えにくい部分も多い。工夫改善を。	・運営推進会議の内容や開催方法について、ご意見を伺いながら工夫改善を行う。
F. 事業所の防災・災害対策	・令和4年度中に感染症、災害共に事業継続計画(BCP)の策定を終える。特に災害については運営推進会議の場を活用しご意見をいただきながら策定に取り組む。	・感染症の事業継続計画は概ね作成することができた。運営推進会議の場でも事業所での感染症予防対策を報告しながらご意見をいただくことができた。 ・災害の事業継続計画については未着手であり、令和5年度から作成に取り組みたい。	・災害時の井戸会議所は必要な場所になると思う。防災倉庫もあり一時的な拠点になり得るのだと思う。以前に火災で自宅が消失した家族を井戸会議所で1泊してもらった事例がある。一時的な避難場所にもなったり、お寺のような役割になるのかもしれない。 ・松尾の家は松尾学区にあり、松尾学区は松尾自主防災会がある。松尾の家の利用者は松尾の家の職員が対応するという考えではなく地域で対応すると考えないといけない。その為に松尾の家の災害計画は松尾自主防災計画の中に組み込まれるべきであり、その中で松尾の家が求められることや役割を考えないといけない。事業所単体で考えてはいけないことだと思う。	・災害時事業継続計画の作成 ・運営推進会議を通して、松尾の家だけで完結しない計画作成や役割の検討を行う。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日	1回目：令和4年12月13日（火）14：00～15：00 2回目：令和4年12月19日（月）14：00～15：00
-----	--

1. 初期支援（はじめのかかわり）

メンバー	1回目：鈴木 松浦 山内 平田 野澤 池田 2回目：志田 佐藤 横山 大東 榎本
------	---

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	3人	11人	0人	0人	14人

前回の改善計画	<p>【目標】新規相談から初回受け入れ迄に具体的な支援の方向性を決め、援助内容の具体化ができる</p> <p>【計画】12カ月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回面接時には介護職員も同席しニーズの把握や具体的な支援内容について確認を行う ・初回面接時の情報をもとにチーム内での情報共有と確認をしてきた支援内容について検討と整理を行う。 ・上記2点を含めた受け入れ迄のルール化を図る。
前回の改善計画に対する取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール化までは図れていないが、初回面接時には介護職が同席し具体的なニーズや支援内容の確認を行う流れができてきている。その為情報共有の場面においても抽象的な表現ではなく明確な情報や指示ができるようになった。同席する職員が一部に限られており、情報共有の際に同じ視点での共通理解が図れていないことが課題として出てきた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか？	5	9	0	0	14
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか？	3	11	0	0	14
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか？	4	10	0	0	14
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか？	2	10	1	1	14

できている点	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り実施できている。利用者にあわせ最長でも1か月を目途に支援内容の評価を行い、適切なサービス提供が来ているか確認し必要に応じて修正ができている。 ・介護職員を同行することで本人や家族のニーズ把握がしやすくなり具体的な援助計画をもとにチームへの周知ができている。 ・情報共有について口頭、書面にて情報共有ができている。受け入れ前から情報の共有ができている。 ・事前の情報をもとに本人へ座席や関わり方の配慮などができている。
--------	--

できていない点	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有について全職員で共通の理解や方向性の確認、援助内容の具体化まで図れていないことがある ・家族との関係づくりは決まった職員での対応が多い。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	<p>【目標】共通の視点で支援内容の検討や情報共有ができるためのツールを作成する。</p> <p>【計画】12カ月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツールを作成することで面談時に同席できる職員が多くなり職員の育成にも繋げる。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日	1回目：令和4年12月13日（火）14：00～15：00 2回目：令和4年12月19日（月）14：00～15：00
-----	--

2. 「～したい」の実現（自己実現の尊重）

メンバー	1回目：鈴木 松浦 山内 平田 野澤 池田 2回目：志田 佐藤 横山 大東 榎本
------	---

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	0人	10人	4人	0人	14人

前回の改善計画	<p>【目標】 ご利用者の「～したい」を知る</p> <p>【計画】 12カ月</p> <ul style="list-style-type: none"> ～したいを聞き取った際には記録に残す。ミーティングや職員会議で共有する。 実現に向けて具体的な検討をミーティングや職員会議で行う。 聞き取った～したいという思いを居宅サービス計画書、小規模多機能型居宅介護計画書に反映させる。
前回の改善計画に対する取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ～したいを聞き取った際に記録に残したり共有することはできるようになってきている。しかし具体的な実現に向けての検討や計画書への反映は一部の利用者（自分で希望が伝えられる方）に限られてしまっていた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	「本人の目標（ゴール）」がわかっていますか？	0	5	9	0	14
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか？	0	6	8	0	14
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか？	0	5	9	0	14
④	実践した（かかわった）内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか？	2	8	4	0	14

できている点	<ul style="list-style-type: none"> まだ一部の利用者に限られてしまっているが、日々の～したい思いを聞き、実現に向けて取り組めることができた。具体的に計画書に反映し本人、家族、事業所職員が同じ目標に向かって取り組めた事例もあった。
--------	--

できていない点	<ul style="list-style-type: none"> ～したいを知ることや実現に向けての取り組みが、一部のご利用者に限られてしまっている事
---------	--

次回までの具体的な改善計画	<p>【目標】 ご利用者の「～したい」を知る。実現する。</p> <p>【12カ月】</p> <ul style="list-style-type: none"> どんな小さなことでもよいので「～したい」を知り実現できる機会を増やす。 計画書へ反映することで、ご利用者自身だけではなく、ご家族や友人等も含めて「～したい」の実現ができる。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日	1回目：令和4年12月13日（火）14：00～15：00 2回目：令和4年12月19日（月）14：00～15：00
-----	--

3. 日常生活の支援

メンバー	1回目：鈴木 松浦 山内 平田 野澤 池田 2回目：志田 佐藤 横山 大東 榎本
------	---

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	2人	12人	0人	0人	14人

<p>前回の改善計画</p> <p>【目標】 ご利用者が主体性をもって日常生活が送れる。 【計画】 12カ月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援を考えるとときはご本人の意向、思いを1番に確認する。 ・ご本人の強みを見て、小さなことでもできる事は継続してもらおう。継続してもらえるように支援を考え実行する。
<p>前回の改善計画に対する取組み結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者に合わせた支援を検討したり職員間で指導する場が持てている。 ・ご利用者の思いよりも家族の思いが優先されることがある。 ・ご本人の強み、出来ることを見る視点が増えてきている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか？	2	12	0	0	14
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか？	0	2	12	0	14
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか？	4	10	0	0	14
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか？	5	9	0	0	14
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか？	2	12	0	0	14

<p>できている点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の気付きが記録に残すことができている ・ご利用者の状態に合わせてどんな支援が良いのかをチームで検討、実施が来ている。
--

<p>できていない点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の声にならない声は一部の職員間でしか共有できていない場面がある。 ・ご利用者の「今」には焦点があたる。しかし「今まで」に意識が行かない、知らないことが多い。

<p>次回までの具体的な改善計画</p> <p>【目標】 ご利用者のこだわりを大切にしながら、日常生活の支援ができる。 【計画】 12カ月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の強みを知る。 ・ご利用者のこだわりを知る。 ・1番にご利用者の意向、思いを確認する。
--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日	1回目：令和4年12月13日（火）14：00～15：00 2回目：令和4年12月19日（月）14：00～15：00
-----	--

4. 地域での暮らしの支援

メンバー	1回目：鈴木 松浦 山内 平田 野澤 池田 2回目：志田 佐藤 横山 大東 榎本
------	---

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組めましたか？	0人	7人	7人	0人	14人

前回の改善計画
<p>【目標】 ご本人の今までの繋がりや生活を断ち切らない</p> <p>【計画】 12カ月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご本人が今繋がっている地域や家族との関係を知る、聞くこと（ご本人、ご家族から） ・自宅、地域での生活暮らしをベースに支援を検討、実行する。 ・地域資源について情報収集を行う。
前回の改善計画に対する取組み結果
<ul style="list-style-type: none"> ・初回面談時に地域との繋がり確認するようにしているが、そこから支援に活かすことができていない。また繋がりが継続しているのか、繋がりから情報を得る取り組みが出来ていない。何か課題が生じたときに確認をしている状況である。 ・事業所での支援が中心と考えず、自宅、地域での生活暮らしをベースに支援を検討することができている。 ・地域資源についての情報収集の機会が持てておらず、情報収集をする意識が薄い。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係を理解していますか？	0	8	6	0	14
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか？	0	8	6	0	14
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか？	0	5	8	1	14
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか？	0	1	9	4	14

できている点
<ul style="list-style-type: none"> ・自宅での暮らしにスポットを当てて支援を検討したり、意向を確認することができてきている。 ・新規利用時には、まず訪問でご本人の生活実態を知ることから始め、出来ている事は続けてもらいできない事に対して支援を行う視点が持て実施できている

できていない点
<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源についての情報収集が出来ておらず、地域資源とご利用者の生活暮らしに結び付けた支援の検討、提案が出来ていない。 ・ご利用者が自宅でどのように暮らしているかを、ご本人以外の方（ご家族、地域等）から知ろうとしていないことが多い。

次回までの具体的な改善計画
<p>【目標】 ご利用者地域との繋がりを知る。</p> <p>【計画】 12カ月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者が地域でどのように繋がっているのかを知る ・ご利用者と地域がどのように繋がっているのかを知ったうえで、事業所と地域がどのように繋がっていくのかを考え実行する。 ・地域資源について情報収集をする。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日	1回目：令和4年12月13日（火）14：00～15：00 2回目：令和4年12月19日（月）14：00～15：00
-----	--

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー	1回目：鈴木 松浦 山内 平田 野澤 池田 2回目：志田 佐藤 横山 大東 榎本
------	---

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組めましたか？	1人	7人	6人	0人	14人

前回の改善計画	<p>【目標】自分たちの事業所だけで抱えない支援を考え実行すること</p> <p>【計画】12か月</p> <p>①地域資源を知る。知るために包括支援センターから情報収集を行う。部署内での勉強会を行う。</p> <p>②ご利用者に必要な支援が出てきた際に「ご本人ができること・できていること」「ご家族ができること・できていること」をまず整理する。次に社会資源の活用ができないかを考える</p>
前回の改善計画に対する取組み結果	<p>小規模多機能の支援だけで完結しないよう、抱え込まないようにご本人、ご家族の強みを見ることを考え支援は行えた。しかし地域包括支援センターからの情報収集や地域資源を知るための取組は出来ていない。</p>

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか？	1	7	6	0	14
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか？	2	5	7	0	14
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか？	3	11	0	0	14
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか？	4	10	0	0	14

できている点	<ul style="list-style-type: none"> ご家族が新型コロナウイルス感染症陽性となり、ご利用者の支援ができなくなった際にはご本人の状態や世帯状況も含め、訪問や宿泊利用など必要性を見極め柔軟な対応ができた。 ご利用者の状態変化に合わせて都度支援内容を相談し対応ができていた。
--------	--

できていない点	<ul style="list-style-type: none"> ご利用者、ご家族の力と小規模多機能の支援で完結してしまう状況がある。そこに今までの繋がりや地域資源を活用した発想がなかなか持てない。状況にあわせて様々な選択肢が持てるよう、地域資源の情報を得ることができていない。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	<p>【目標】今以上に多機能性を活かすため、地域資源を活用した支援ができるようになる</p> <p>【期間】12カ月</p> <ul style="list-style-type: none"> ご利用者と地域との繋がりを知る。 地域資源について見聞きし情報を得る。 知り得た地域資源を活かした支援について検討する時間をもつ
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日	1回目：令和4年12月13日（火）14：00～15：00 2回目：令和4年12月19日（月）14：00～15：00
-----	--

6. 連携・協働

メンバー	1回目：鈴木 松浦 山内 平田 野澤 池田 2回目：志田 佐藤 横山 大東 榎本
------	---

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	0人	5人	8人	1人	14人

前回の改善計画

【目標】 これからの地域との繋がり方を再検討、再構築する。

【計画】 12ヵ月

- ・今までのやり方や考え方に捉われずこれからの地域との繋がり方を検討し実行する。検討する際には運営推進会議委員や地域包括支援センターからも助言をもらう。
- ・地域ケア会議等、地域との繋がりが持てる機会や場には積極的に参加する。

前回の改善計画に対する取組み結果

- ・地域との繋がり方を検討したり助言をいただく場を設けることはできなかった。
- ・機会は少なかったが、地域ケア会議等、繋がりが持てる機会や場への参加は積極的に行ったが、参加する職員が限定的であった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？	2	4	4	4	14
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？	2	3	5	4	14
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？	0	0	8	6	14
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	0	0	8	6	14

できている点

- ・他サービス事業所との連携や会議については常々意識をして場を設けることができていた。
- ・事業所内だけで課題解決が難しい状況があった際には包括支援センターへ相談、協働をしながら課題解決に向けて取り組むことができていた。

できていない点

- ・地域での活動やイベントなどはほとんど参加の機会が持てなかった。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり事業所側からの積極的なかわりもできなかった。

次回までの具体的な改善計画

【目標】 地域との連携や協働について改めて検討し行動ができる。

【期間】 12ヵ月

- ・地域包括支援センターとの協働については引き続き継続していく。
- ・地域や各種機関の活動やイベントには状況を見ながら積極的に参加をしていく。
- ・事業所として地域との連携や協働について検討する場をつくる。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日	1回目：令和4年12月13日（火）14：00～15：00 2回目：令和4年12月19日（月）14：00～15：00
-----	--

7. 運営

メンバー	1回目：鈴木 松浦 山内 平田 野澤 池田 2回目：志田 佐藤 横山 大東 榎本
------	---

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	2人	8人	4人	0人	人

前回の改善計画	<p>【目標】（継続）地域の方からの意見や提案をいただき、今後も協働していくために出来ることを検討し実行する</p> <p>【計画】12か月</p> <p>①地域包括支援センターから地域の状況やニーズを伺い、事業所としてできることを考え実行する。</p> <p>②運営推進会議の場や今までの地域の方との繋がりから今後の協働や事業所のあり方についてご意見をいただき出来ることを考える。</p>
前回の改善計画に対する取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターからは利用相談を通してニーズを伺い事業所としてできる事を考え実行することができた。 ・運営推進会議の場でいただいたご意見についてはできる事から取り組んでいるが、地域の方との協働について出来ていないことが多い。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているですか？	0	9	5	0	14
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか？	0	14	0	0	14
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか？	0	10	2	2	14
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取り組みを行っていますか？	0	3	6	5	14

できている点	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のミーティングや会議の場を通して事業所としての在り方やご利用者、ご家族等からのご意見について考え、運営や支援に反映することができている。 ・年に1回の満足度調査を実施し、事業所のサービス内容等についてご意見をいただき、運営やご利用者支援に反映することができている。
--------	--

できていない点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方からの意見や苦情をいただける場を設けられていない。 ・地域に必要とされる拠点であるために積極的に協働した取り組みを行うことができていない。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	<p>【目標】（継続）地域の方からの意見や提案をいただき、協働していくために出来ることを検討し行動する</p> <p>【計画】12か月</p> <p>①地域包括支援センターから地域の状況やニーズを伺い、事業所としてできることを考え実行する。</p> <p>②運営推進会議の場や今までの地域の方との繋がりから今後の協働や事業所のあり方についてご意見をいただき出来ることを考える。</p>
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日	1回目：令和4年12月13日（火）14：00～15：00 2回目：令和4年12月19日（月）14：00～15：00
-----	--

8. 質を向上するための取組み

メンバー	1回目：鈴木 松浦 山内 平田 野澤 池田 2回目：志田 佐藤 横山 大東 榎本
------	---

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	0人	12人	0人	2人	14人

前回の改善計画	<p>【目標】 継続して訪問援助時のリスクを学ぶと共に訪問援助の質を向上する。</p> <p>【計画】 12か月</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部研修も活用し学ぶ機会をもつ 訪問援助マニュアルの見直し
前回の改善計画に対する取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> 訪問に特化した内容ではなかったが、積極的に外部研修にも参加する機会を作った。参加した研修についてはできる限り事業所内で伝達研修を行い、質の向上に取り組んだ。 訪問援助マニュアルの見直しはできなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	研修（職場内・職場外）を実施・参加していますか	4	10	0	0	14
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	2	7	2	3	14
③	地域連絡会に参加していますか	0	6	3	5	14
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	1	10	2	1	14

できている点	<ul style="list-style-type: none"> 園内、部署内、外部研修を活用しながら学ぶ機会や振り返る機会を持つことができている。 1部の職員であるが、計画作成担当者研修や管理者研修等スキルアップを図るための研修参加ができた。 事故が発生した際には要因、原因の分析や再発防止策の検討に都度取り組むことができている。
--------	---

できていない点	<ul style="list-style-type: none"> 1部の職員以外は外部研修に参加してもらった機会がなかった。 地域連絡会への参加はほとんどできなかった。 リスクマネジメントについては発生した事故等を通して取り組んではいるが、そもそも事故発生を防ぐための学びや考える機会は少ない。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	<p>【目標】 事業所でできる介護予防について取り組んでいく。</p> <p>【期間】 12か月</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護予防について学ぶ機会を持つ。 介護予防の視点からできる支援を検討し1つでも実施する
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日	1回目：令和4年12月13日（火）14：00～15：00 2回目：令和4年12月19日（月）14：00～15：00
-----	--

9. 人権・プライバシー

メンバー	1回目：鈴木 松浦 山内 平田 野澤 池田 2回目：志田 佐藤 横山 大東 榎本
------	---

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	8人	6人	0人	0人	14人

前回の改善計画	
【目標】	身体拘束、虐待防止、個人情報について部署内で考える、振り返る場を持つ。
【計画】	12カ月
	・定期的に身体拘束等適正化委員会 高齢者虐待防止等対策委員会の開催 ・個人情報への配慮について定期的に職員会議で振り返り、対策を検討する。
前回の改善計画に対する取組み結果	
	・事業所内で2か月に1回は安全管理会議を開催し、身体拘束や虐待防止、個人情報保護について確認、検討、学ぶ機会を持つことができている。 ・個人情報についても学ぶ機会はあるものの、職員間での情報交換の際などに配慮に欠けた場面がある。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
①	身体拘束をしていない	10	4	0	0	14
②	虐待は行われていない	7	7	0	0	14
③	プライバシーが守られている	2	12	0	0	14
④	必要な方に成年後見制度を活用している	5	8	0	1	14
⑤	適正な個人情報の管理ができている	5	9	0	0	14

できている点	
	・個人情報、プライバシーへの配慮や研修の実施。情報共有場所の配慮 ・身体拘束や虐待、利用者の嫌がる事はしていない ・ケアの方法については振り返りを行い、拘束等人権の侵害されていないか共有を図っている ・身体の事はもちろん、言葉でも否定するような言葉を使わない様にしている

できていない点	
	・フロアで個人情報のやり取りをしてしまっていることがある。 ・個人情報を書いたメモをカウンターに置き忘れていた時がある ・職員間で指摘しあうことができていない。

次回までの具体的な改善計画	
【目標】	個人情報の取り扱いや管理について事業所内での研修と点検を行う。
【計画】	12カ月
	・個人情報の取り扱いと管理について事業所内での点検を行い、出来ている事、改善すべきことの整理を行う。 ・個人情報の取り扱いについて部署独自での研修を行う。